平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ２０７ ※記入不要	提案機関名	畜産課　畜産環境班

要望問題　たい肥化原料としての剪定枝チップ等の分解率に関する試験

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

背景　家畜排せつ物法の本格施行を控え、畜産農家によるたい肥の生産が増加している。
良質たい肥の生産には事前の水分調整が最も重要であり、おがくずやモミガラがよく利用されているが、近年では必要量の確保が非常に困難になってきており代替となる副資材が求められている。
一方では、県条例で野焼きが禁止されたことを受け、植木生産農家や街路樹の剪定で生じる剪定枝の処分が問題視されてきている。
すでに一部ではたい肥化副資材として利用がされているが、樹種やチップの形態によって分解に要する時間・分解率などが違うと考えられ、規模積算等に用いる指標数値が無く、指導機関としても農家の相談に応じる事が困難な状況にある。

内容　「平成１３年度に畜舎新敷料のたい肥化試験」として行われているが、樹種・形態が明らかでなく判断しづらいため、県内で発生する剪定枝について、主な樹種・チップ形態ごとに分解に要する時間や最終分解率の調査を行う。

対象地域　県下全域

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産研究所

部　署：企画経営部

対応区分　①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

「街路樹剪定屑の堆肥化について」神奈川県農業総合研究所研究報告第 128 号
「高水分牛ふん尿の堆肥化における梨剪定枝の利用法」愛知県農業総合試験場研究報告 2001
「公園・街路樹剪定枝葉の抑臭堆肥化技術の検討」埼玉県畜産センター研究報告 1999

対応の内容等

平成 13 年度に当所で実施した試験「畜舎新敷料の堆肥化試験」では、公園や街路樹、学校等の樹木を伐採し破砕した剪定屑等を使用しましたが、樹種までは明らかにできませんでした。
樹種ごとの分解特性については、未利用資源堆肥化マニュアル（神奈川県農業技術課）や神奈川県農業総合研究所研究報告第 128 号「街路樹剪定屑の堆肥化について」で報告されていますので参考にしてください。
また、剪定枝を用いた家畜ふんの堆肥化については、他県の試験研究機関からも報告されていますので、情報提供いたします。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	